

2026「競技者必携」審判の部 改訂・修正点

P20

1. 公認審判員規程

第7条(認定会参加資格)

※改訂理由(修正理由)

公認審判員登録数の減少等の現状を鑑み、選考会参加資格の「1年を経過し」の基準を緩和し、「応答月以上」に修正した(公式記録員の認定会参加資格と同様の形とした)。

第7条(認定会参加資格)

第1種公認審判員認定会には第2種公認審判員の資格を取得して1年を経過(応答月以上)し、かつ、所属支部長の推薦を得た者でなければ参加することができない。

2 第2種公認審判員認定会には第3種公認審判員の資格を取得して1年を経過(応答月以上)し、かつ、所属支部長の推薦を得た者でなければ参加することができない。

3 第3種公認審判員認定会にはルールの正しい適用と審判技術の習得を目指す熱意を持った者でなければ参加することができない。

P61

6. 審判実務のために

(4) 塁審の位置と姿勢

※改訂理由(修正理由)

P71の「7.審判員の基本動作」中の「球審・塁審の構え」に同様の文章があり、その部分との整合性を図り、文章表現を統一するため、「腰を落として」の部分削除した。

(4) 塁審の位置と姿勢 この部分を削除

走者が塁にいないときは、両手を握り、ズボンのポケット前に置いて、どちらの方向にでもすぐに動ける状態でプレイに備える。

走者が塁にいるときは、投手が投球動作に入ったら球審に合わせて腰を落とし、どちらの方向にでもすぐに動ける状態で、両手を握り両足の大腿の付け根付近に軽く添え、次のプレイに備える。

P62

6. 審判実務のために

(5) 塁審の動きと判定位置

ア.フォースプレイ

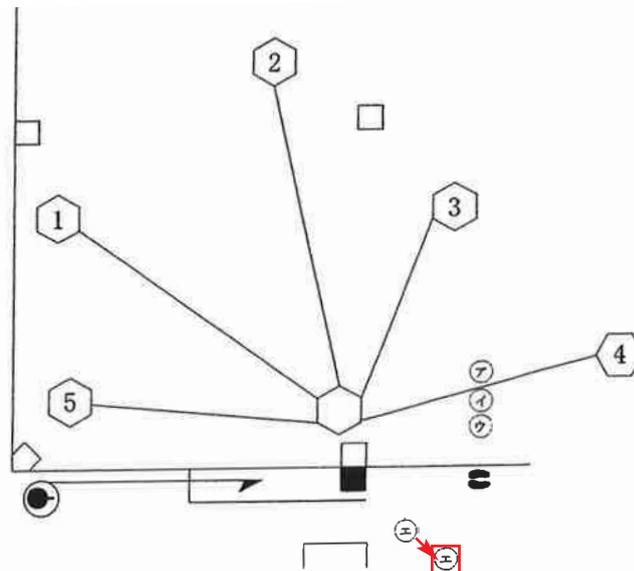
※改訂理由(修正理由)

図aの「エ」の判定位置を実際に試合で行っている判定位置に修正した(右下に移動させた)。

(5) 塁審の動きと判定位置

ア. フォースプレイ

【一塁】(図a)



P80

7. 審判員の基本動作

ホームラン

コール・シグナル

※改訂理由(修正理由)

審判員が実際に行っている動作に合わせ、文言を修正した。

宣言用語	打球と進塁 ツーベース	ホームラン
姿勢と構え	打球が、間接にフェンスを越えたか、または競技場外に出たかを確認する。	打球が、直接フェンスを越えたかどうかを確認する。
コール・シグナル	確認した塁審は、“ボールデッド”とコールし、右手を高く挙げ2本の指を立て“ツーベース”とコールする。 球審もこれに同調する。	確認した塁審は、右手を挙げて人差し指を伸ばし、時計回りに水平に円を描く。
ゼスチャー		

2026「競技者必携」用具の部 改訂・修正点

P168

◎オフィシャルバットの 検定マークと表示

④号数

※改訂理由(修正理由)

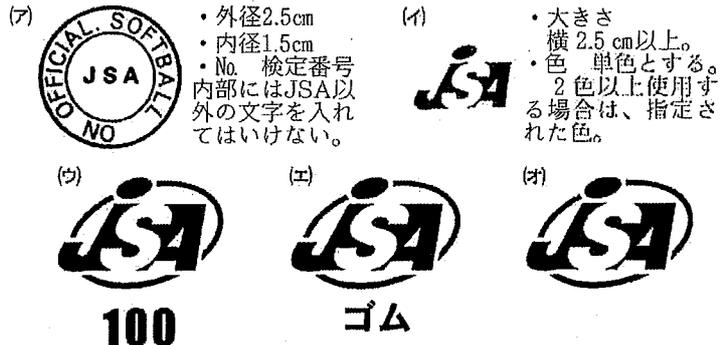
ゴムボールが新意匠球となることに伴い、
3号バット→12inch バット
2号バット→11inchバット
と順次、変更となっていく予定のため、該当部分を修正した。

1. 用具の手引 (抜粋)

◎オフィシャルバットの検定マークと表示

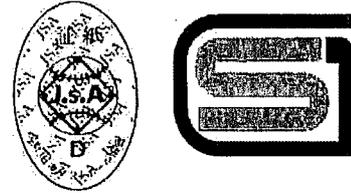
(1) 金属製バット 金属製バットには次の表示がある。

① 検定マーク



・(ウ) 新ゴム・革ボール用バット検定マーク
・(エ) 新ゴムボール用検定マーク
・(ウ)(エ)の新マーク表示のバットについては、購入時、証紙の貼付無し
・(オ) 旧基準(革ボール用バット)で証紙の貼付無し(継続検定品)
・平成28年度以降の革ボール使用大会では(ウ)の表示のあるバットしか使用できない

② 証紙 ③ 対人賠償責任保険



④ ~~号数~~ 種類 ※必携にミスプリあり

12inch、11inch、1号の表示

ア. 安全グリップで、すべすべした電気工専用タイプのテープは不正である。

検定マークは「グリップ」と「メーカーマーク」の間か、メーカーマークが2つあるときはその中間に入れること。

木製バットにおいても、新検定マークの表示のあるバットは、購入時、証紙の貼付無し

② 日本協会証紙

下部の文字の他は、金属バットに貼付されているものと同じである。(金属バットのアイ項は木製バットにも適用される)

③ ~~号数~~ 12inch、11inch、1号の表示 種類 ※必携にミスプリあり

◎オフィシャルバットの規格基準

名称	長さ	最も太い部分の直径と誤差	重さ	安全グリップ
検定 12inch バット	86.36cm以内	5.72cm以内 +0.79mm	1.08kg以内	25.4cm以上 38.1cm以内
検定 11inch バット	81.3cm以内	5.08cm以内 +0.79mm	1.08kg以内	23.8cm以上 35.8cm以内
検定 1号 バット	78.8cm以内	5.08cm以内 +0.79mm	1.08kg以内	23.1cm以上 34.6cm以内

※ルールブックの一覧表に合わせ、12inch、11inch、1号バットの順に表記を変更

P169

◎オフィシャルバットの 検定マークと表示

(2)木製バット ③号数

◎オフィシャルバットの規格基準

※改訂理由(修正理由)

ゴムボールが新意匠球となることに伴い、
3号バット→12inch バット
2号バット→11inchバット
と順次、変更となっていく予定のため、一覧表を修正した。
※ただし、従前の商品も従来通り使用することができる。

P170

◎オフィシャルボールの 検定マークと表示

※改訂理由(修正理由)

ゴムボールが新意匠球となる
に伴い、12inch(旧3号)球の
画像に差し替え、表示した。

◎オフィシャルボールの検定マークと表示

(公財)日本ソフトボール協会からオフィシャルボールとして検
定承認を認められた製造業者(販売業者を含む)は、(公財)日本
ソフトボール協会の制定した検定マークを表示しなければならない。
い。



P170

◎オフィシャルボールの 規格基準

※改訂理由(修正理由)

ゴムボールが新意匠球となる
に伴い、一覧表を修正。1号ボ
ールの欄は削除し(協会主催大
会での使用がなく、今後製造予
定もない)、「協会2号ボール」を
「検定11inchボール」、「協会3
号ボール」を「検定12inchボー
ル」と名称・表記を変更した。

◎オフィシャルボールの規格基準

名 称	周囲と誤差	重さと誤差
協会1号ボール(ゴム)	26.7 cm ± 0.32 cm	141 g ± 5 g
検定12inch ボール (革)	30.48 cm ± 0.32 cm	187.82 g ± 10.63 g
検定12inch ボール (ゴム)	30.48 cm ± 0.32 cm	190 g ± 5 g
検定11inch ボール(ゴム)	28.58 cm ± 0.32 cm	163 g ± 5 g

削除

※ルールブックの一覧表に合わせ、12inch、11inchの順に表記を変更

P173

◎公認・推奨用具用品について

※改訂理由(修正理由)

ルール3-5項1に「フェイス
マスク」が追加されたのに伴い、「投
手・野手用フェイスマスク」を追
記した。

◎公認・推奨用具用品について

(1) 検定用具(バット、ボール、打者(走者)用ヘルメット、捕手
用ヘルメット)の他に、日本ソフトボール協会では、次の用具・
用品について審査の上、公認および推奨用具用品として使用を
すすめている。

○公認 捕手用のマスク、プロテクター、レガーズ。
審判員用のマスク、プロテクター、レガーズ。

○推奨 グラブ、ミット、ファーストミット、スパイク、

投手・野手用フェイスマスクその他

(公認・推奨メーカー・卸商一覧表 P181)

○特別推奨JSAマーク入り審判ウェア '03年度から新設され、
公式試合での着用が認められた。

(2) 公認・推奨用具用品等の表示について

○公認用具・用品には公認マーク、推奨・用具用品には推奨マ
ークがある。'03年度から特別推奨JSAマーク入り審判ウェアが
新たにできた。

表示にあたっては、公認マーク、推奨マーク、JSAマーク
など、任意としている。

参考資料 ケースブック 改訂第7版 掲載事例

参考資料として、「オフィシャル ソフトボール ルール ケースブック」改訂第7版に掲載されている「新意匠ゴムボール」関連の事例を「参考資料」として紹介する。

RULE 3

用具

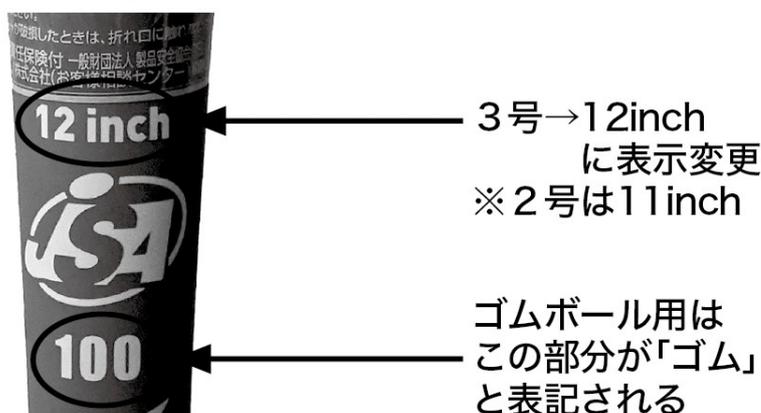
CASE 3-1-5

Q J S A (日本ソフトボール協会) の検定済みのバットならば、「革ボール」「ゴムボール」の大会を問わず、どの大会でも使用してもよいか。

A バットには12inch、11inch、1号がある。12inchには、「ゴム・革ボール用バット」と「ゴムボール用バット」があり、革ボール使用大会で「ゴムボール用バット」は使用することはできない。12inch球は、12inchバットを使用しなければならない。11inch球は、11inchバット、1号バットのどちらを使用してもよい。1号球は、11inchバット、1号バットのどちらを使用してもよい。

(注)2013年度より「新検定マーク」が表示されたバットの発売が開始されている(ゴム・革ボール用、ゴムボール用とも)。「新検定マーク」表示のバットには、従来使用されていた「証紙」の添付はなく、「新検定マーク」の表示だけとなる。また革ボール使用大会では、2016年度以降、「新検定マーク」表示のバット以外は大会で使用することはできなくなった。

また、2026年度からゴムボール使用大会の公式球が「新意匠ゴムボール」に変更された。それに伴いボールの名称も「3号球」が「12inch球」に、「2号球」が「11inch球」に変更されたが、現行販売されている商品、個人・チームが保有しているバットについては旧表記の「3号」「2号」のものも変わらずに使用できる。



新意匠ゴムボールの導入に伴い名称変更

3号バット	→	12inchバット	革ボール使用大会	12inch(旧・3号)ゴムボール使用大会	11inch(旧・2号)ゴムボール使用大会
ゴム・革ボール用	→	ゴム・革ボール用	○使用可	○使用可	×使用不可
ゴムボール用	→	ゴムボール用	×使用不可	○使用可	×使用不可
2号バット	→	11inchバット			
ゴムボール用	→	ゴムボール用	×使用不可	×使用不可	○使用可

👉 (ルールブック) 3-1 項 8・9、3-2 項 2

(競技者必携) 用具の手引き ◎オフィシャルバットの検定マークと表示 ○オフィシャルバットの規格基準

ボール(球)

CASE 3-2-1

Q J S A (日本ソフトボール協会)の主催大会で、あるチームが、「私たちはいつも〇〇社のボールで練習しているので、そのボールで試合を行いたい」と申し出た。この申し出は認められるか。

A J S A (日本ソフトボール協会)主催大会では、その大会ごとに使用球を決め、大会を行っている。大会使用球に定められたもの以外は、その大会では使用することはできない。大会使用球は、当該年度ごとに J S A (日本ソフトボール協会)が決定し、オフィシャルホームページ等で年度初めに発表している。

また、2026年度からゴムボール使用大会の公式球が「新意匠ゴムボール」に変更された。それに伴い、旧・3号球が「12inch球」に、旧・2号球が「11inch球」に名称が変更された(1号球は今後生産される予定はない)。2026年度以降に開催される生涯種別、高校種別の全日本大会については、新意匠『12inch球』『11inch球』を公式球とする。



3号→12inch



2号→11inch

☛ 〈ルールブック〉3-2項

〈競技者必携〉用具の手引き ◎オフィシャルボールの検定マークと表示 ◎オフィシャルボールの規格基準

2026「競技者必携」記録の部 改訂・修正点

P131

2. 公式記録員規程

第2条(公式記録員の種別と任務)

※改訂理由(修正理由)

公式記録員の登録数が減少傾向にあり、第1種公式記録員だけでは大会運営に必要な人員を揃えられないケースも出てきていることから、第2種公式記録員であっても「支部記録委員長が認めた場合」のみ、全国大会の記録業務にも携わることができるようにした。

2. 公式記録員規程

第1条(目的)

この規程は、公益財団法人日本ソフトボール協会(以下、「当法人」という。)記録委員会規則第5条第3号の規定により、当法人及び支部協会(地区協会を含む)が主催・主管する大会において記録の公正かつ正確を期するため、公式記録員制度の設置並びに認定等について必要な事項を定めるものとする。

第2条(公式記録員の種別と任務)

公式記録員の種別は、第1種公式記録員、第2種公式記録員及び第3種公式記録員とする。

- 第1種公式記録員は、記録、集計に練達可能な技術と豊かな見識を持ち、公式記録員規程(以下、「当規程」という。)に定める手続きを経て資格を付与された者をいい、全国大会を含むすべての大会の記録業務に携わることができる。
- 第2種公式記録員は、熟達した技術と豊かな見識を持ち、当規程に定める手続きを経て資格を付与された者をいい、**全国大会(日本リーグ・JDリーグ除く)、および地区大会又は支部大会の記録業務に携わることができる。なお、全国大会の記録業務に携わる場合は支部記録委員長が認めた場合に限る。**
- 第3種公式記録員は、記録業務に対する情熱と豊かな見識を持ち、当規程に定める手続きを経て資格を付与された者をいい、支部大会の記録業務に携わることができる。
- チームの登録スコアラーで、試合中ベンチに入ることができる者は、公式記録員の有資格者とする。

第8条(認定会参加資格)

第1種公式記録員認定会への参加資格は、第2種公式記録員の資格を取得して1年以上経過(応答月以上)し、かつ所属支部長の推薦を得た者でなければならない。

- 第2種公式記録員認定会への参加資格は、第3種公式記録員の資格を取得して1年以上経過(応答月以上)し、かつ所属支部長の推薦を得た者でなければならない。
- 第3種公式記録員認定会への参加資格は、オフィシャル・ルールに精通し、公正かつ正確な記録業務に携わる熱意を持った者でなければならない。

P133

2. 公式記録員規程

第8条(認定会参加資格)

※改訂理由(修正理由)

認定会参加資格において、「1日だけ足りない」「3日足りない」といった状況を回避するため、従前の「資格取得から1年以上経過し」の部分に「応答月以上」の一文を追加し、認定会参加資格の条件を緩和した。

P150

3. 公式記録員手引

6. 大会速報

※改訂理由(修正理由)

例示する大会速報の差し替えを行った。

(注) 競技者必携ではモノクロでの掲載となります。

令和7年度 全国高等学校総合体育大会ソフトボール競技大会(女子)

《大会速報》 試合番号 47

会場所在地: 岡山県

第4日	2025年07月29日	決勝	津山市、勝北総合スポーツ公園
開始時間: 10時06分	終了時間: 11時30分	中断時間: 00時間00分	試合時間: 01時間24分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
青空学園高等学校	0	0	1	0	1	0	0	1							3
新潟県立日本海高等学校	0	0	0	0	0	2	0	2x							4

青空学園高等学校	新潟県立日本海高等学校	青空学園高等学校	新潟県立日本海高等学校
(投手) 和田 美和 小椋 めぐみ ●和田 美和 (捕手) 赤尾 奈津代	(投手) 工藤 さつき ○林 由佳 (捕手) 山下 幸代	(二) 大西 弘子②	(三) 三井 小百合
バッテリー		長打(本塁打・三塁打・二塁打)	

戦評

日本海高等学校 逆転サヨナラで初優勝!

青空学園高校は3回一死後、代打吉元の三塁強襲安打と大西の三遊間安打でチャンスを築き、坂井の一二塁間適時打で1点を先制。5回には大西、赤尾の長短打に守備の乱れから1点を加えた。

一方、日本海高校は6回、一死二塁から三井の右中間三塁打などで2点を奪い、そのまま延長に突入した。

青空学園高校は8回表、持田の犠牲フライで1点を勝ち越したが、その裏、日本海高校は藤森の右前安打で再び同点に追いつくと、山下の二塁内野安打で藤森が生還し、逆転サヨナラで念願の初優勝を遂げた。

球審	小野 恭子	副審 1	山本 琴音
一塁塁審	上川 香織	副審 2	
二塁塁審	芝田 華	記録員	小池 知里
三塁塁審	森 さやか	放送員	谷 恵美

P151

3. 公式記録員手引

【記録1号】

※改訂理由(修正理由)

例示する大会を、昨年度の大大会(最新のもの)に差し替えた。

大会結果報告書

記録1号

大会名 第54回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント

年月日 令和7年11月8日～10日

会場 堺市、くら寿司スタジアム堺

(公財) 日本ソフトボール協会 記録委員会

記録長 鈴木 豊

副記録長 山根 浩明

報告書類

組合せ・立ち上がり表(トータルスコア記入) <記録3号>

試合結果(イニングスコア等・準決勝以降) <記録4号>

投手の記録 (全チーム) <記録5号 全チーム>
(規定投球回数以上) <記録5号順位別>

打撃・守備の記録 (全チーム) <記録6号 全チーム>
(規定打席数以上ベスト30) <記録6号順位別>

スコアカードの写し (決勝および準決勝)

P152

3. 公式記録員手引

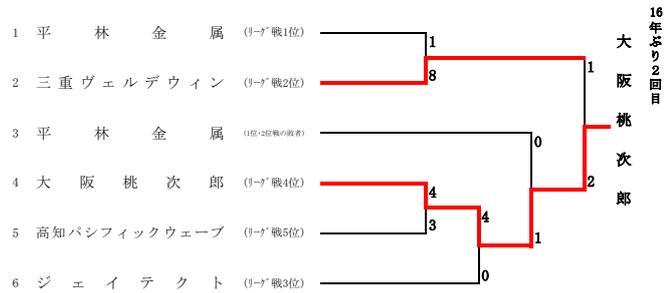
【記録3号】

※改訂理由(修正理由)

例示する大会を、昨年度の大会(最新のもの)に差し替えた。
(注)競技者必携ではモノクロでの掲載となります。

2025年度第54回日本男子ソフトボールリーグ決勝トーナメント

期日 令和7年11月8日(土)～10日(月)
会場 大阪府堺市、くら寿司スタジアム堺(原池公園野球場)



(公財)日本ソフトボール協会 記録委員会

作成上の注意

1. 試合番号、試合開始時間、○回コールド、○回タイブレーク、不戦勝(没収試合)等は記入しない。チーム名はプログラムと同じかを確認する
2. 抽選勝ちの場合、得点を○で囲む
3. 問い合わせ先は大会期間中のみ記載する

P153

3. 公式記録員手引

【記録4号】

※改訂理由(修正理由)

例示する大会を、昨年度の大会(最新のもの)に差し替えた。
(注)競技者必携ではモノクロでの掲載となります。

第54回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント

会場所在地:大阪府 メイン会場:堺市、くら寿司スタジアム堺

《記録4号》

第3日	2025年11月10日	3位決定戦			試合時間: 02時間07分										試合番号	4	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
大阪桃次郎		1	0	0	0	0	0	0	0							1	
平林金属		0	0	0	0	0	0	0	0							0	

先攻(投手)○岡崎 建斗
(捕手)山内 貴博

後攻(投手)●坂山 蓮、小山 玲央
(捕手)蓮沼 陸、藤井 雅広

先攻(本塁打)松本 三汰
(二塁打)宇根 良祐
(三塁打)松本 三汰

後攻(本塁打)
(三塁打)
(二塁打)

特記事項

第3日	2025年11月10日	決 勝			試合時間: 02時間14分										試合番号	5	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
大阪桃次郎		0	1	0	0	0	0	0	0	1						2	
三重ヴェルデウイン		0	1	0	0	0	0	0	0	0						1	

先攻(投手)○岡崎 建斗
(捕手)山内 貴博

後攻(投手)木場田 翔也、●酒井 匠
(捕手)上田 都也

先攻(本塁打)
(三塁打)
(二塁打)筒井 拓友

後攻(本塁打)
(三塁打)
(二塁打)

特記事項

作成上の注意

一方のチームが棄権した場合、4号の備考欄に不戦勝を明記する

P154

3. 公式記録員手引

【記録5号】

※改訂理由(修正理由)

例示する大会を、昨年度の大
会(最新のもの)に差し替えた。

(注) 競技者必携ではモノクロでの掲載と
なります。

【記録5号 全チーム】

大会名：第54回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント
投手の記録 (チーム全試合) 登録試合数：4 チーム名：大阪桃次郎

Table with 15 columns: No, 氏名, 登録試合数, 投球回数, 打者, 打球, 安打, 打点, 失点, 自点, 盗塁, 犠牲打, 与球, 与三塁, 与四塁, 与五塁, 与六塁, 与七塁, 与八塁, 与九塁, 打撃率, 盗塁率, 犠牲打率, 与球率, 与三塁率, 与四塁率, 与五塁率, 与六塁率, 与七塁率, 与八塁率, 与九塁率, 試合数

【記録5号順位別】

大会名：第54回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント
投手の記録 規定投球回数 4回以上 (記録5号順位別)

Table with 28 columns: 順位, 氏名, チーム名, 登録試合数, 投球回数, 打者, 打球, 安打, 打点, 失点, 自点, 盗塁, 犠牲打, 与球, 与三塁, 与四塁, 与五塁, 与六塁, 与七塁, 与八塁, 与九塁, 打撃率, 盗塁率, 犠牲打率, 与球率, 与三塁率, 与四塁率, 与五塁率, 与六塁率, 与七塁率, 与八塁率, 与九塁率, 試合数

P155

3. 公式記録員手引

【記録6号】

※改訂理由(修正理由)

例示する大会を、昨年度の大
会(最新のもの)に差し替えた。

(注) 競技者必携ではモノクロでの掲載と
なります。

【記録6号 全チーム】

大会名：第54回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント
打撃・守備の記録 (チーム全試合) 登録試合数：4 チーム名：大阪桃次郎

Table with 28 columns: No, 順位, 氏名, チーム名, 登録試合数, 打撃率, 盗塁率, 犠牲打率, 与球率, 与三塁率, 与四塁率, 与五塁率, 与六塁率, 与七塁率, 与八塁率, 与九塁率, 打撃率, 盗塁率, 犠牲打率, 与球率, 与三塁率, 与四塁率, 与五塁率, 与六塁率, 与七塁率, 与八塁率, 与九塁率, 試合数

【記録6号順位別】

大会名：第54回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント
打撃ベスト30 規定打席数 4打席以上 (記録6号順位別)

Table with 28 columns: 順位, 氏名, チーム名, 登録試合数, 打撃率, 盗塁率, 犠牲打率, 与球率, 与三塁率, 与四塁率, 与五塁率, 与六塁率, 与七塁率, 与八塁率, 与九塁率, 打撃率, 盗塁率, 犠牲打率, 与球率, 与三塁率, 与四塁率, 与五塁率, 与六塁率, 与七塁率, 与八塁率, 与九塁率, 試合数